

圃運営委員会で琵琶湖総合開発の問題も取り上げるべきだと提案したところ、それはつぶされ以後委員から外されたと言ったことが「週刊金曜日」に紹介された。その委員会委員長である川那部さんから天野さんにファックスが来た。委員会での貴女のその意見は少数意見として排除された。ブラックバス等外来魚問題を取り上げることが多数の同意で採用された。意見があるならNGOとして表明すればよいとの内容。

その二。日本魚類学会は六月三〇日に公開シンポジウム「ブラックバス問題を科学する——なにをいかに守るのか？」を開催したが、その前段としての水産庁に対するゾーニング案中止要請行動に川那部さんは裏で根回しをした。宍道湖・中海問題では逆の動きをした。建設省(現国土交通省)、水資源開発公団そして滋賀県による琵琶湖総合開発事業の漁業や琵琶湖の水環境への悪影響が一般の目に見える形で明らかになりだしたのは五、六年前からのことだが魚類学会をはじめ、京都大学、滋賀大学、滋賀県等の研究者がそのことについて調査研究を行い、琵琶湖総合開発事業の見なおしや中止を要請し、琵琶湖を四〇年前の状態にもどすようにと提案したという話は聞かない。それよりも滋賀県立琵琶湖博物館の中井克樹さん(この人も京都大学理学部での川那部さんの弟子である)を筆頭として琵琶湖の魚や漁業にかかわる研究者はこぞって琵琶湖の漁獲量が減少しているのはブラックバスなど外来魚のせいであると声高に主張するばかりで琵琶湖総合開発事業の問題点を明らかにしようとしていない。

その三。一九六六年二月に近畿地方建設局が発行した「びわ湖生物資源調査団・中間報告」二冊調査の

のような文章がある。この調査の目的は堅田守山間のダム建設のために、南北両湖が遮断され、また北湖が水位変動することによる、水産資源への影響の基礎資料と、その後の水産対策への基礎資料をうることにある。これが当初の琵琶湖総合開発計画である。さすがに堅田守山間のダム建設というのは具体化せず湖全体に人工護岸築をつくり水ガメ化し水位変動を利水のために調整することになった。その結果として、異常湧水や増水、沿岸水草帯や藻場の消失、エビや魚の産卵場や稚仔魚の成育場の消失、ブルーギルを除くブラックバスを含めたすべての魚種の漁獲量減少、琵琶湖の漁業の衰退ということが五、六年前から顕著になりだした。この調査団のまとめ委員副主任の川那部さんはこうなることを三五年前に予想していたはずである。そして漁業者に対しては、だから漁業補償が支払われていると弁解するだろう。しかし、琵琶湖の魚や水に関心をもち漁業者以外の滋賀県民はそれでは納得しない。そこで、ブラックバスおよびその釣り人に責任をみな押しつけてしまおうとしているとしか考えざるをえない。

ブラックバスは琵琶湖の義務むらむらの意味がわかり頂けたらどうか。

さて本題にもどり、右に述べた連続講座で森さんは最後のまとめとして、この問題に関する合意形成の一つの過程として、段階的ゾーニング」という考え方を提案されました。その後の討論のなかで筆者は各地におけるブラックバスへのかわり方の検討における具体的な進め方として次のようなことを考えました。ブラックバスの存在を望まない水体(川、湖、池沼等)ではブラックバスを駆除しブラックバスやブルーギルのいない一種の逆サンクチュアリ(外來

魚捕獲地)をつくり上げる。いっぽう、ブラックバスとの関係をこれから維持していきたい水体ではこのブラックバス等外来魚をきちんと管理し問題の発生を抑える。前者の代表例としては琵琶湖が、そして後者の代表例としては芦ノ湖が考えられる。そこで、全国各地において身近なその水体に関心をもち多様なかわり方の人々が話し合っこの水体では両者のどちらかを選択するか決め、それを具体的に実現してゆく。結果として何年後には全国的にゾーニングが実現している可能性がある。全国一斉に琵琶湖化する、いや芦ノ湖化しろという、オーロアナッシングまたはゼロワンゲームではいつまでも明かれない。できるところから納得の得られるところからどんどん進めてゆけばよいという考え方である。

というわけで、連続講座第五回(十月十三日)は芦ノ湖漁協の橋川宗彦さんに「芦ノ湖漁協のブラックバスへのかかわり方、過去、現在そしてこれから」という内容で話題提供をお願いする。そして琵琶湖ということになるが話題提供をお願いする漁業者の方とか準備の関係でたぶんそれは十二月ということになりそうである。その前に、(財)日本釣振興会は釣りの代表が、(財)全日本釣り団体協議会こそそうではないのか、関東と関西ではブラックバスフィッシングに対する関心の強さ、ゲームフィッシングとしての成熟度などがちがうのではないか、釣りのメディアということの一括りにされる釣り雑誌も多様であるといった疑問に答えてもらおうべく、十一月一日(出)の第六回は「週刊釣りサンデー」会長の小西和人さんをお願いしている。